

令和5年度
市民活動支援事業

成果報告書

はじめに

「霧島市市民活動支援事業」は「共生・協働のまちづくり」の一環として、市民活動団体が行う公益的・公共的な活動に対して経費の一部を補助することにより、様々な市民活動を支援する制度です。これまでに延べ147団体が活用し、令和5年度は5団体が本制度を活用して様々な活動に取り組みました。

この「令和5年度市民活動支援事業成果報告書」は、事業の活動内容や成果等を広く周知し、今後の市民活動の参考にしていただくことにより「共生・協働のまちづくり」が本市全体に広がることを期待して取りまとめたものです。

〈 参 考 〉 令和5年度 霧島市市民活動支援事業応募・採択内訳

【選考審査の結果】

区 分	応 募	採 択	※実 施
団 体 数	8 団体	7 団体	5 団体
N P O 法 人	1 団体	1 団体	1 団体
その他の団体	7 団体	6 団体	4 団体
事 業 数	8 事業	7 事業	5 事業

【分野別内訳】

分 野 別	応 募	採 択	実 施
保健・医療・福祉	1	1	1
国際交流	1	1	1
学術・文化・芸術・スポーツ	2	1	1
まちづくり	2	2	1
社会教育	1	1	1
農山漁村振興	1	1	0
合 計	8	7	5

目 次

(団 体 名)	(ページ)
1 全国ギャンブル依存症家族の会鹿児島	1～ 2
2 きりしまにほんごきょうしつ	3～ 4
3 浜田到を語る会（暁の会）	5～ 6
4 特定非営利活動法人竹の子会	7～ 8
5 宮内研究会	9～10

＜ 参 考 ＞ 各団体の補助額等について

目次 番号	事業名	事業費	補助額
1	ギャンブル依存症予防・啓発事業	487,775 円	238,000 円
2	霧島市の多文化共生の推進に関わる事業	414,388 円	183,000 円
3	浜田到顕彰啓発事業	130,647 円	60,000 円
4	竹の子会・竹子活性化事業	488,408 円	171,000 円
5	宮内ふる里歴史面白さ UP 事業	227,649 円	102,000 円
合 計		1,748,867 円	754,000 円

ギャンブル依存症予防・啓発事業

＜全国ギャンブル依存症家族の会鹿児島＞

事業費：487,775円 市補助金：238,000円

目的（背景・課題）

ギャンブル依存症は、WHOでも認められた病気であるにもかかわらず、「本人の甘い考え」「一攫千金を狙う愚か者」「意志が弱いダメな人」と、性格の問題と誤解されている。2017年厚生労働省より国内ギャンブル依存症罹患者は320万人との推計が出された。

ギャンブルの問題は本人が破産申請して生活保護を受けたり、家族が借金を立て替えて経済的に困窮して家族も自己破産した例が霧島市でもある。

ギャンブル依存症に苦しみ、悩んでいる家族が早期に対応して問題の解決を図ることの必要性を痛感している。関係機関と連携して依存症者の回復を図ること、ギャンブル依存症に関する情報を広く社会に発信するとともに依存症の予防を目的とし、霧島市を鹿児島県の拠点として活動していく。

事業内容

① ギャンブル依存症の家族のための定例会を開催

毎月1回家族の会を開催し、ギャンブル依存症を学び、家族及び当事者の体験談を通じて当事者への家族の対応を協議した。

1月には講習会として、依存症当事者の体験発表と家族の会福岡の代表の講和で会員の研修を実施した。

② ギャンブル依存症についての専門家を招いて「ギャンブル依存症セミナー」を令和5年12月9日に開催した。

③ 県依存症拠点病院等と連携を図った。

④ 家族の相談に的確な対応ができるように、相談スキルを高める必要があることから他県でのセミナーや講習会に参加した。

事業の成果

① 家族の会への参加者が延べ約180名。

ギャンブル依存症を理解して、当事者の対応を変えた事により、当事者が回復している家族が増えてきた。

② ギャンブル依存症セミナーに、霧島市内外から100名以上が参加した。

③ 依存症拠点病院の家族教室や保護観察所家族教室での体験発表を通じて依存症の啓発に繋がった。

④ 福岡県開催の全国ギャンブル依存症家族の会や、全国総会での研修会に参加して、相談スキルアップと他県の家族の会との連携強化が図れた。

自己評価

1 事業効果

期待していた以上の効果が上がった。

2 改善すべき課題

なかった。

3 予算執行

多少の変更があった。

旅費・セミナー会場費で当初の計画と変更があった。また、参加者が増えたことで声が聞き取りにくくなったためアンプを購入した。

4 今後の展望

活動を始めて2年経過して相談者が増えている。啓発活動を強化し、当会の存在を広く周知していきたい。6年度が補助事業最終年度になるので資金的にも自立していきたい。

5 その他

特になし。

**ギャンブル依存症
セミナー & 相談会
in 鹿児島**

2023年
12月9日(土)
溝辺公民館(みぞめ館)
鹿児島県霧島市溝辺町3391
九州自動車道 溝辺ICを左折して約10分
鹿児島空港から車で約10分

セミナー
13:30 - 16:30 大ホール
参加無料 予約不要

相談会
17:00 - 18:30
定員10名・完全予約制
家族 研修室1
当事者 研修室3

予約方法・お問い合わせ
相談会は完全予約制です。
必ずメールか電話にてご予約ください。
その他お問い合わせも下記までご連絡ください。
電話 090-1089-4147(担当:松元)
メール gdfam.kagoshima@gmail.com

霧島市民生活活動支援事業補助会より開催しています。
主催：全国ギャンブル依存症家族の会 鹿児島支部

http://www.gdfam.org

**ギャンブル依存症
9日無料セミナー**
霧島市家族の会
ギャンブル依存症の知識
や当事者への適切な対応を
知ってもらおうと全国ギヤ
ンブル依存症家族の会鹿児
島は9日、霧島市の溝辺公
民館で無料セミナーを開
く。

講師は県依存症治療拠点
機関・森口病院(鹿児島市)
の田中大三院長と、You
Tube(ユーチューブ)
で俳優高知東生さんと依存
症情報を発信している「ギ
ャンブル依存症問題を考え
る」の田中紀子代表の2
人。

午後1時半〜4時半。5
〜6時半に相談会(定員10
人・完全予約制)もある。
問い合わせや相談予約は
全国ギャンブル依存症家族
の会鹿児島1109(10
89)・4147。

(南日本新聞記事より)

<セミナーの様子>



<家族の会>



ご家族のギャンブルの問題で悩んでいませんか・・・

全国ギャンブル依存症家族の会 鹿児島

家族の会のご案内

ギャンブル依存症はWHO(世界保健機関)でも認定された病気です。一人で悩まず、共に対応の仕方を学びませんか！

この家族の会は

- ・ご家族のギャンブルなどの問題で困っている方
- ・ご家族が現在、依存症回復施設に入寮されている、これから入寮を考えている方
- ・ギャンブル依存症について詳しく知りたい方など、どなたでも参加していただけます。

※秘密は厳守されます

家族には 家族の解決策があります!!

【開催日】 毎月 第二 土曜日

会場や時間変更についてはホームページで確認してください

【時間】 14時～16時30分 (受付13:30～)

【場所】 霧島市国分公民館 (霧島市役所ソニックセンター3F)

【参加費】 お一人 1,000円

・霧島市国分中央三丁目45-1
・JR日豊線国分駅から徒歩約5分
・車の方はお祭り広場駐車場を利用してください。(土日は無料開放)

当事者の会同時開催
公民館別室にて、当事者会を開催します。
【参加申込不要・参加無料】

【問合せ】 090-1089-4147 (松元)

※ 家族の会に初めて参加される方は、電話かメールでご予約をお願いします
予約申し込みメール gdfam.kagoshima@gmail.com

NPO法人 全国ギャンブル依存症家族の会
TEL 090-1404-3327 <http://www.gdfam.org/>

霧島市市民活動支援事業補助金により開催しています。(2023.12)

団体情報

<団体名> 全国ギャンブル依存症家族の会 鹿児島

<代表者> 松元 英雄

<設立日> 令和3年12月19日

<会員数> 7人

<主な活動>

ギャンブル依存症者の家族の支援及び、依存症に関する勉強会、啓発活動、予防教育、情報提供などの活動を行う事を目的とする。

<連絡先>

所在地 〒899-6507 霧島市牧園町宿窪田169-16

TEL 090-1089-4147

霧島市の多文化共生の推進に関わる事業

<きりしまにほんごきょうしつ>

事業費：414,388円 市補助金：183,000円

目的（背景・課題）

在住外国人に関連する、日本語教育、国際交流、異文化理解等の活動を行うことにより、在住外国人を含む地域住民の相互理解に貢献することを目的とする。

少子高齢化の進展に伴い、霧島市内でも在住外国人の数は今後も増加する傾向にある。そのような状況の中、在住外国人の生活のベースである日本語・日本文化の理解や、地域住民との相互理解は益々求められている。これらの課題解決の一助となる事業を行っていきたい。

事業内容

- 1.カンパセーションナイトの開催
在住外国人と地域住民との日本語での交流会
- 2.日本語サポーター養成講座の開講（第1期・第2期）
日本語や日本での生活でのサポートができる人材を育成するための講座
- 3.イベントの開催 短期的な開催（1日や短時間）のイベント
・ボウリング大会
・食べて知ろう 話してもっと知ろう（第1回ベトナム編）
- 4.その他の活動
・SNS等での情報発信（団体HP・Facebook・公式LINE）
・定例ミーティング（月1回）
・活動写真展の開催（サン・あもり、霧島市役所）
・第一工科大学日本語講座の留学生と川原小学校との交流支援
・企業での日本語講座の日本語サポーター活動
・議員と語りかいへの団体での参加
・初午祭への外国籍住民との参加
・文化庁 地域日本語教育コーディネーター研修 事例発表依頼
・鹿児島県地域日本語教育ネットワーク会議 事例発表依頼
・地域日本語どっとねっと 取材依頼・WEB記事
・NJ日本語ジャーナル 取材依頼・WEB記事
・宮崎県地域日本語教育コーディネーター研修 講師依頼

事業の成果

1. 定期的な開催を継続できたため、外国籍住民や日本人参加者のリピーターが増えた。地域に交流の場があることの周知にもつながり、相談したい、日本語を学びたいという要望がある外国籍住民がここに参加し、横のつながりを広げたり、日本語を練習する場として活用したりできた。
2. 地域に住む日本人の理解者を拡大させ、様々な場面（自治会・職場・学校・子育て）においての外国籍の方々への対応や偏見のない対応ができる人材の育成ができた。講座への反響も良好で、今後の活動への意欲も高かった。これからも継続して開講し、スキルアップ講座も活用して継続的なサポーター活動へつなげていく予定である。
3. スポーツや食を通じた交流では、想定以上の参加者や企業の協力もあり、大盛況であった。継続した開催も希望する声もあがっており、霧島市の社会資源を活用しながら交流を深めたり、学びを広げる機会になった。家族での参加も可能な点が好評だった。
4. 年間を通して事例発表の依頼や取材依頼があった。当団体の活動が全国的にも注目を集める事例となってることを実感した。今後はより地域に活動の理解を広め、啓発に努めたい。

自己評価

- 1 事業効果
期待していた以上の効果が上がった。
- 2 改善すべき課題
収入につながる賛同者や支援者を得るために、活動の周知を進めていく必要がある。
- 3 予算執行
多少の変更があった。
当初の予定の収入が得られなかったため、予算の確保が困難になった。
- 4 今後の展望
カンパセーションナイトの定期開催の継続と広報活動を積極的に行う。日本語サポーター養成講座の基礎とスキルアップを開催し、継続的な関わりが持てるようにする。イベントや講座の内容を充実させ、国籍や年齢を問わず参加できるような工夫を行う。
- 5 その他
活動期間が長くなるにつれて、問い合わせや

相談が増加してきた。地域でのニーズが高く、活動の範囲を広げていく必要性を実感している。活動のための予算と人材をどのように確保し、継続したものになるか今後十分な検討が必要である。

活動の様子



団体情報

<団体名>きりしまにほんごきょうしつ

<代表者>本田 佐也佳

<設立日>令和4年5月28日

<会員数>8人

<主な活動>

霧島市内において、在住外国人に関連する、日本語教育、国際交流、異文化理解等の活動を行うことにより、在住外国人を含む地域住民の相互理解に貢献することを目的とする。

<連絡先>

所在地 〒899-4331 霧島市国分城山町4-15

TEL 080-6479-0857

浜田到顕彰啓発事業

<浜田到を語る会（暁の会）>

事業費：130,647円 市補助金：60,000円

目 的（背景・課題）

1. 浜田到の短歌についての研究

浜田到の歌については、著名な短歌編集者中井英夫など多くの人から高い評価を受けているが、内容が難解である。

こうしたことから、当会の中に「浜田到研究専門部会」を設置し、浜田到の歌集や浜田到に影響を及ぼしたと言われるリルケ、浜田到とともに前衛歌人として活躍した塚本邦夫、寺山修司、岡井隆の歌などを調査し、結果をまとめていく。

2. 会員及び一般市民等を対象にした「浜田到を語る会」の実施

令和3年2月から5月まで、かごしま近代文学館で「孤高の歌人 浜田到」展が開催されたが、当会はこの企画展を契機として発足した。以来、当会では四半期ごとに会員及び一般市民等を対象にした「浜田到を語る会」を実施してきたが、これを継続し深めていく。

3. 浜田到トークセッションの開催

浜田到の前衛短歌は語と語のイメージが繊細に響き合い情緒的である反面、その解釈が難解なものも多く、短歌に詳しい人にも様々な解釈と意見がある。短歌に関心のある多くの人がそうした解釈や意見を聴講することで浜田到の短歌に魅力を感じ、また自分なりの評価を持ってもらうために開催する。

4. 浜田到の作品や「浜田到を語る会」での講演要旨などをまとめた小冊子の作成準備

将来的に、浜田到の歌詩や「浜田到を語る会」での講演要旨などをまとめた小冊子を作成する予定があることから、随時資料を整えていく。

5. 浜田到の歌碑建立の検討

当会の大きな目的の一つが浜田到の歌碑建立である。そのためには、場所、資金、工法、碑文の内容など検討すべき課題が多い。

文学碑は、歌人や作歌を顕彰するためのものであるが、地域の文化振興や観光振興にも寄与する。

課題解決のためには、こうしたことを行政や市民に訴え、協力を求めていきたい。

6. 浜田到顕彰短歌大会の検討

短歌大会を開催し広く応募を募ることは短歌の啓発になるとともに浜田到の功績に関心を持つ契機となる。

全国に募ることで霧島市の文化振興や観光振興にも寄与し、地域の学校に募ることで文化啓発の場を提供できる。

- 5月20日 川野裕子歌碑除幕式 熊本県 5名
歌碑建立・除幕式の視察
- 7月11日 研究会 浜田到の文献一覧作成
- 8月4日 第8回例会 国分公民館大会議室 参加20名
講演 有川和秀氏「山ヶ野金山と国分隼人の灌漑事業」
- 8月17日 研究会 小冊子の内容検討
- 9月11日 研究会 小冊子の編集作業
- 10月6日 研究会 小冊子の校正
- 10月27日 研究会 小冊子のグラ校正
- 11月1日 霧島市役所 市民活動支援事業成果発表会 出席
- 11月4日 トークセッション開催 参加40名
- 12月8日 研究会 トークセッション書き起こし、校正
- 1月15日 研究会 講演会企画、検討
- 2月3日 特別例会 参加73名
講演「研究者による浜田到の世界」の開催

今年度はトークセッション開催を主事業とし、トークセッション開催時の配布資料として小冊子を200部発行した。トークセッションは霧島市内外から多数の参加があり新聞に取り上げられるなど盛会であった。特別例会は残念ながら霧島市での開催は叶わなかったが定員70名に対し定員を上回る参加者となった。

事業の成果

研究会を立ち上げて小冊子の編纂作業を行うことで、浜田到の霧島市における活動、文献一覧をまとめることができた。また、多数の寄稿を得ることができた。小冊子の反響は大きく中央歌人の賛同を得ることができ、2月の特別例会（講演会）へとつながり、今後の活動にも協力をいただけることになった。

トークセッションは会員以外への広報取り組みであったが、霧島市内外から多くの参加者があり新聞社からも取り上げられ、浜田到の魅力を伝えるとともに霧島市の文化も大いにアピールすることができた。

特別例会は霧島市での開催は叶わなかったが、定員以上の参加者となった。この講演で著名な中央歌人の講演を開催できたことは特筆に値し、今後の短歌大会、歌碑建立の全国的な広がりが期待できる。また中央歌人とのパイプが出来たことで、浜田到の歌集復刻などの新たな計画も持ち上がり当会の活動の幅に広がりが出てきた。

事業内容

- 5月11日 研究会発足、活動方針など
- 5月6日 第7回例会 国分公民館大会議室 参加20名
令和5年度総会、令和4年度収支報告
講演 二見剛史氏「日本人の心 ― 短歌に思う」

自己評価

- 1 事業効果
期待していた以上の効果が上がった。
- 2 改善すべき課題
・広報、動員の関係で会場確保を早めに行いたいが難しい局面があった。
・短歌大会に市長賞、教育委員長賞を設ける相談窓

口がわからない。
 ・歌碑建立における窓口がわからない。
 3 予算執行
 多少の変更があった。
 当初は令和6年度に行う予定であった小冊子の発行を、トークセッション用に前倒しで作成したために印刷製本費が増大した。そのために旅費など他項目の費用を削減することとなった。
 4 今後の展望
 令和6年度は「浜田到顕彰きりしま短歌大会」(仮称)を行い、広く全国に浜田到の魅力を発信し、霧島市の文化活動をアピールしていきたい。また小中高校の子供たちに短歌に触れ合う場を提供したい。
 5 その他
 今回の活動を通して浜田到ファンの中央歌人らとのつながりが出来たことは予想外の成果であった。このことで短歌大会、歌碑建立の盛り上がりが期待でき、浜田到の歌集復刻という思いがけない計画もおきた。

活動の様子



歌人 浜田到の世界学ぶ

近代文学館 魅力や生涯解説

「濱田到の短歌と評され、霧島市の歌と世界について学ぶ講演会が3日、霧島市のかこしま近代文学館であり、約70人が参加した。濱田は16歳で短歌を始め、戦後、医師として働く傍ら作歌を続けた。中央の歌壇でも高く評価され、著名な編集委員によって広く紹介された。浜田暹太郎の筆名でも発表された。会場の高橋成、同郷芸妓の香山結美さんは、旧制豊見島一中で同学生年だった詩人・黒田三郎との関わりについて、年賀状など同郷収蔵品を受けて紹介した。評伝『浜田到 歌と詩の生涯』の著者、歌人の大井

学さん(56)「東京には浜田の主な作品を解説、作品にむかむかの人生観や住んでいた町の短交方を紹介して、」
 「歌の言葉の表面的な意味だけでなく、歌にすることだけ現れてくる世界に詩情を見いだし、目指していたのではないかと語った。」
 浜田到を語る会・暁の会(霧島市)の主催。同会の井口松子代表は「浜田到の美しい世界を多くの人に知ってもらい、語り合う場が広がるといい」と話した。(入道里松子)

特別例会掲載記事
 南日本新聞より
 (R6・2・11)

団体情報

- <団体名> 浜田到を語る会(暁の会)
- <代表者> 井口 松子
- <設立日> 令和3年7月5日
- <会員数> 29人
- <主な活動>
 講師を招いた研究会の開催
 浜田到の原稿、書籍、作品などの展示会
- <連絡先>
 所在地 〒899-4331 霧島市国分城山町7-10
 TEL 080-3370-6037



小冊子発行 (R5.11)

竹の子会・竹子活性化事業

<特定非営利活動法人竹の子会>

事業費：488,408円 市補助金：171,000円

目的（背景・課題）

過疎化が進み、子どもの減少にも歯止めのかからない竹子地区で、子どもや高齢者、住民と一緒に集い、演劇等を饗することで、地域の活性化に寄与したい。

事業内容

竹子ふるさとライブ実施

芸能講演（太鼓集団と仲間たち 外）

【第1部】

①寸劇②日本舞踊③マジックショー④びやっこう太鼓

【第2部】

①歌謡ショー②生バンド演奏③のど自慢大会

【第3部】

①抽選会50組

日時 10月21日 13時開場 13時30分開演

場所 竹子小学校体育館

対象者 小学生から一般

入場料 1,000円

（障害者手帳所持者及び80歳以上の竹子地区住民は無料）

事業の成果

○学校関係者や地域の方々の協力で盛大に行われ、ご来場の方々に喜んでいただいた。特に、歌謡ショー・生バンドは盛り上がり、地域の人が喜んでくれている様子を近くで感じることができた。

○抽選会も今回初めて実施し、参加者に喜んでくれたと思った。

○改善点として、プログラムを作成していなかったため、演目の一部だけをききたい人に案内ができなかった。次回からはプログラムを作成し、より良い竹子ふるさとライブにしていきたい。

自己評価

1 事業効果

期待した効果が上がった。

学校関係や地域の方々の協力で盛大に行われ、ご来場の方々に喜んでいただきました。

2 改善すべき課題

大きな問題点は、何もなかったが、もっと地域の方々への恩返しをしていきたい。

3 予算執行

ほぼ予定どおり執行できた。

（今までに4回の実施経験あり）

4 今後の展望

竹子、大字全体像を考えると、もっと多くの方に知っていただいて、若者への引継ぎを考えながら、高齢者への見守りとできるかぎりの支援をしていきたい。

5 その他

当初、同級生のみで出発してきているので、同じ思いを持つ、ボランティア精神がある若者を多く集めることに難しさを感じた。

竹子ふるさとライブの様子





団体情報

<団体名> 特定非営利活動法人 竹の子会
<代表者> 理事長 中吉 修二
<設立日> 令和2年1月10日
<会員数> 10人
<主な活動>
1 東西落語競演会
2 竹子ふるさとライブ
3 ふるさと霧島カラオケ
<連絡先>
所在地 〒899-4304 霧島市溝辺町竹子3218番地
TEL 090-3193-6353

宮内ふる里歴史面白さUP事業

<宮内研究会>

事業費：227,649円 市補助金：102,000円

目 的（背景・課題）

1. 宮内の歴史遺産を調査する。

宮内のことについて記されたものとしては、隼人町郷土誌、隼人の歴史などの旧隼人町時代の刊行物が何点かある。また、文化財については旧隼人町教育委員会が隼人町文化財分布図として地図上に落とし込んである。

ただ、これらは隼人町全体を対象としたものであり、また、その後の道路整備や住宅化などにより、石像等が紛失しているものや場所が移動しているものもある。

こうしたものの状況を宮内のものについて、より詳細に調査するとともに、それらに記載されていないものの発掘に努め、宮内の歴史遺産の全体把握を図る。

2. 宮内の歴史についての啓発及び情報発信

地域の歴史を知ることは、地域への愛着を生むうえでとても大事なことである。

ところが、宮内に3ヶ所の国指定史跡があることや宮内原用水のこと、貝塚のこと、入定遺跡のことなど数多くの歴史のことについては、宮内に長年住む人でさえ知らない人が多い。加えて、宮内は、住みよい地域として新しい住宅が次々と出来、古くからの住民と他地域からの流入者の混在が著しい地域であり、せっかくのこうした貴重な歴史資産が身近な人に知られていない状況である。

このため、史跡巡り、研修会、パンフレットの発刊などにより、地域の人々に隼人の歴史について啓発する。

また、地域内外の人々への情報発信のためのホームページやブログ作成について検討していく。

事 業 内 容

1. 宮内の歴史遺産の調査

(1) 宮内地域内の歴史遺産の状況の調査記録

隼人町文化財分布図等を参考にしながら当研究会が作成した宮内地区歴史遺産(史跡等)図を基に、宮内地域内の歴史遺産の状況を調査記録した。

① 宮内地区史跡案内冊子の検討・作成

これまでに公民館だよりに掲載された史跡について、掲載内容を再度検討し、「わたしたちの町 宮内歴史散歩1」という小冊子にまとめて500部作成し、自治会等に配布した。また、宮内小学校の今春卒業生全員に卒業記念として贈呈した。

② 歴史遺産の状況を調査記録

史跡等図に記載されている史跡等について、その来歴、状況等を調査し、その成果を公民館だよりに掲載した。

③ 新規発掘、場所の特定等

神宮境界柱、宮西石敢當、朝日田の神、神田川橋梁の銘

④ 史跡損壊、荒廃状況調査

隼人駅横の火の神、沢家墓碑群五輪塔、三雲五月墓所

(2) 宮内地域の旧字図の見直し作成

平成4年度にまとめた「地名から探る宮内の歴史」と照らしながら、平成3年度作成の宮内地域の旧字図を再検討した。(大きな変更要素はなかった)

(3) 宮内地区の主な歴史遺産の関連先調査

鹿児島神宮と関係する日南市の青島神社・鶴戸神宮、湧水町の勝栗神社、指宿市の枚聞神社・揖宿神社、隼人関連の都市の弥五郎どんの館、日南市の潮嶽神社、宮内原用水関係の池田湖揚水機場、湧水町・横川町の仏教遺跡などを実際に見て、宮内の歴史遺産の記録の深化を図った。

期日	実施地区
5月16日	都城市、日南市
11月3日	湧水町、市内横川町
1月16日	指宿市

2. 宮内の歴史についての啓発及び情報発信

(1) 令和6年3月17日に、宮内地区自治会連絡協議会が主催する史跡めぐり(宮内原用水の源流と工事工夫を訪ねる)において、別添資料のパンフレットを作成し、これを基に参加者に宮内原用水の工事工夫や宮内への貢献などについて説明・案内する計画である。

(2) 宮内の歴史調査に係る団体との意見交換会令和5年10月15日の隼人学講座で宮内研究会の活動状況を紹介した。

(3) 地域への広報

① 各月1回、宮内公民館が発行している公民館だよりに「宮内歴史散歩」として、宮内の史跡等を紹介した。

② 宮内の史跡等に地域住民等が親しんでもらうように「わたしたちの町 宮内歴史散歩1」を発刊した。

(4) ホームページ等作成検討

これまで調査してきた宮内の史跡等について、令和5年4月からmiyautisanpo という会員のブログで発信している。

事 業 の 成 果

1. 宮内の歴史遺産の調査記録

(1) 歴史遺産の状況を調査記録、発掘、史跡損壊や場所移動の確認

これまでに公民館だよりに掲載された史跡等について、小冊子の「わたしたちの町 宮内歴史散歩1」にまとめて、自治会等に配布したことや、公民館だよりになどにより、地域の人々に宮内の史跡等への関心を高めてもらったと思う。

史跡の一部に損壊したものや管理が行き届かず荒れたものがある。所有者が不明など課題は大きい。今後対応を検討する必要があると思っている。

(2) 宮内地区の主な歴史遺産の関連先調査

関連先調査においては、宮内の歴史をより深く理解するとともに、調査結果に記載したとおり、その地域における史跡保存、活用状況について参考になることが多かった。

2. 宮内の歴史についての啓発及び情報発信

(1) 史跡めぐり

令和5年度の史跡めぐりは「宮内原用水の源流と工事工夫を訪ねる」ということで、宮内原用水の源流である水天淵から用水を辿るコースである。ほとんどが宮内外であるため、改めて調査する必要があった。それにより、宮内原用水の工事に至るまでの汾陽盛常の苦勞、難工事を成し遂げるための工夫などが分かり、調査の意義は大きかった。また、参加者は、こうしたことを知ることで、宮内原用水の有難さを再認識すると思う。

(2) 宮内の歴史調査に係る団体との意見交換会の実施

隼人学講座で宮内研究会の活動状況を紹介したが、参加者が歴史に関心のある人ばかりだった。そうした場で当研究会の研究成果を発表し、意見を交換したことは、当研究会の意識の向上、隼人学との今後の相互協力、ひいては宮内の歴史研究の深まりへの繋がりまで期待できると思う。

(3) 地域内外への広報

「わたしたちの町 宮内歴史散歩1」の発刊や公民館だより、ブログのmiyautisanpoにより宮内の史跡等のことを紹介したことで、宮内地区内外に宮内の歴史への関心を高めることができたと思う。

自己評価

1 事業効果

期待した効果が上がった。

2 改善すべき課題

複数人での現地調査や地域の人からの聞き取りなどが十分にできなかった。できるだけ調査をスピードアップしていきたい。

3 予算執行

多少の変更があった。

公民館だよりに掲載された史跡について、内容を再度検討し「わたしたちの町 宮内歴史散歩1」という小冊子にまとめて作成したが、昨今の物価上昇等の影響もあり予定単価の値上がりや、宮内小学校の今春卒業生全員に卒業記念として贈呈するなど寄贈数の増加等により作成部数が250冊予定が500冊に増加し印刷製本費が当初予算を上回ることとなった。

4 今後の展望

①ウォーキングや公民館だよりや公共の場への掲載

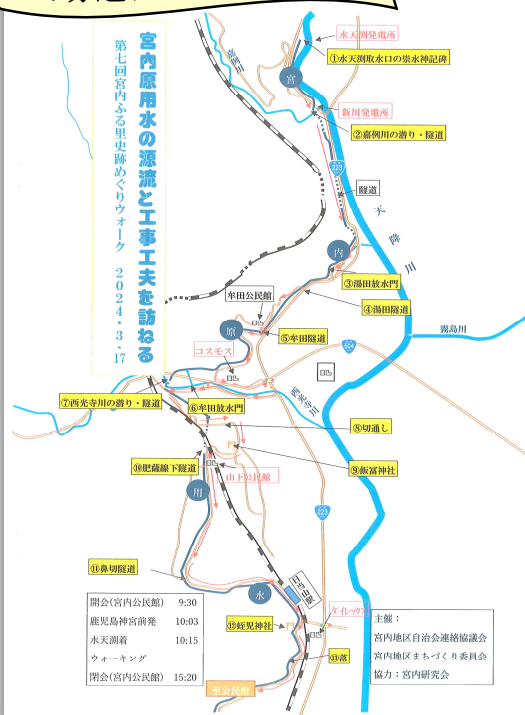
②史跡等の調査を継続・充実させていく。

③昔の道から宮内の歴史を探る活動を継続していく。

5 その他

会員相互協力のもと、計画達成に向けた活動ができたと思う。

史跡巡り～宮内原用水



日南方面研修の様子



指宿方面研修の様子



横川方面研修の様子



湧水方面研修の様子



わたしたちの町 宮内歴史散歩 1



霧島市隼人町 宮内研究会

団体情報

<団体名> 宮内研究会

<代表者> 会長 有川 和秀

<設立日> 平成30年6月20日

<会員数> 8人

<主な活動>

- ・宮内地区の歴史に関する文献調査
- ・宮内地区の史跡調査
- ・宮内地区自治会連絡協議会主催の「宮内ふる里史跡めぐりウォーキング」での史跡案内

<連絡先>

所在地 〒899-5106 霧島市隼人町内山田2-14-3

TEL 0995-42-1106

令和5年度
市民活動支援事業成果報告書

令和6年11月

〒899-4394 霧島市国分中央三丁目45番1号
霧島市役所 市民環境部 市民活動推進課

T E L 0995-64-0988 (直通)

F A X 0995-46-0566

E-mail simi-katudo@city-kirishima.jp